



世界中に、日本人のような人がたくさんいました。彼らは、共通して「成熟していた」ということです。秩序を理解し、自分だけの想いを他人に押し付けない、相手を尊重した行動をとっておりました。それが言語での解決ばかりを主としていない、不思議な雰囲気をもっていました。つまり、非認知能力が高い人々でした。自



分がどのように生きていくか、しっかりともっている人達でした。「コミュニケーション」が、英語や現地語の言葉が通じることだけをさすわけではないと感じました。海外の人々は個人主義な人達ばかりと思っていたのですが、彼らのなかでも良心に基づいて行動している人々はたくさんいました、それでも日本人はそのような行動様式の人



が圧倒的に多いです。「非認知能力」は数値化できない力です。ここでこれを解説してしまうと、それ以上は身につかなくなってしまうので、是非とも Google 検索や chatGPT で調べてみてください。人はなぜ、気持ちが乱れるのか？それは、自分の「秩序」と世界の「秩序」がずれてしまったときです。その「世界」がどこをさすかは、そのひとそれぞれですが、Mental Age が高まらな

いと、その「世界」と自分の区別はどうでもよくなり、「自己愛」という魔物に巻き取られてしまうようです。アンコンシヤスバイアスという、知らない間に偏りをつくってしまっていることや、自分の損得の考えに支配されてしまう時期なのでしょう。自分と世界の秩序の調和を維持することが時として難しいですが、是非とも自分の心の秩序を高めて、安定させることを目指していけるとよいようです。「話せる人」と関わることで、たくさんの価値観、ダイバーシティという観点から、自分



がこだわっている事、習慣、癖から、より良い自分になるかもしれません。「自分が変わると、周りが変わる」というのは、なぜなのでしょう。



幸せも、他人と比べたときから不幸が始まるといわれます、物質的に日本ほど豊かではないのに、屈託のない気持ちで過ごしている人たちの数のほうが、

全人類



の大半のようです。ちょっとしたことから感謝の気持ちや学びを得ることで、非認知能力が高まるようです。

